中共政府の隠ぺいにより、中共ウイルスは全世界に拡散されている

2月3日、習近平氏は中央政治局常務委員会議で「1月7日にすでにウイルスに対する対策を要求した」と述べた。

2月3日、外務省の報道局長・華春瑩氏の公式発言「1月3日から中国はアメリカに対し、ウイルスの状況を30回にわたって報告した」

これらにより、1月3日までに、中共政府が武漢ウイルスの厳重さをすでに知っていたと言える。しかし、中共政府はどのように行動したのか？

2019年 12月31日	武漢政府はウイルスの人から人への感染事例を発見していないと発表した。
2020年 1月3日	李文亮氏ら８名の医師は、ウイルスの真実の状況を公開したことにより、政府から訓戒処分を下され、口封じされた。
2020年 1月6日～10日	武漢市は予定通り地方の両会を開催したが、ウイルスの状況は発表しなかった。 （※両会とは：人民代表大会と人民政治協商会議）
2020年 1月18日	政府の活動に協力するため、武漢百歩亭自治会は「万家宴会」を開催し、４万世帯以上の家族が参加した。その後、ウイルスが広範囲に拡散された。
2020年 1月23日	武漢市は緊急事態宣言を発表し、都市封鎖（ロックダウン）した。

1月23日時点で、ウイルスの感染事例が発見されてから1ヵ月以上が経っていた。その期間は旧正月の帰省ラッシュであったため、約500万人が武漢から全国各地、および世界各地へ移動した。そのため、ウイルスは中国全土および世界各地で爆発的な感染拡大となった。現在、世界で数千万人が感染し、数十万人の命が奪われてしまった。

注記：「明慧週刊」第954期の記事「重点を掴み、実質に基づいて真相を伝える」により整理したものである。